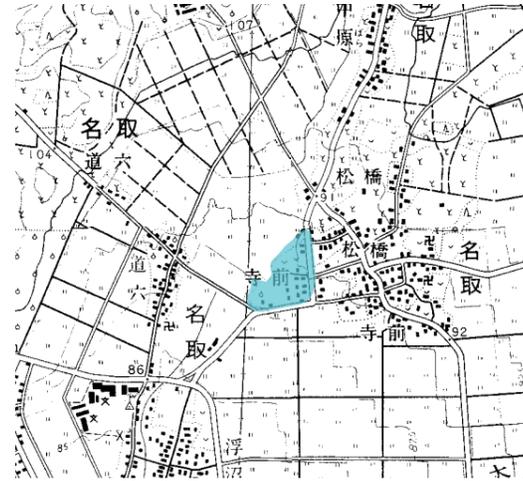


調査要項

遺跡名	松橋遺跡(平成11年度登録)
所在地	山形県村山市大字名取字松橋
時代・種別	平安時代・中世:集落跡
起因事業	東北中央道(東根~尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成25年6月3日~平成25年10月22日
調査面積	1,800㎡
調査担当者	専門調査研究員 氏家信行(現場責任者) 調査員 森谷康平
調査成果(10月5日現在)	
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土坑・柱穴
遺物	土師器・須恵器・陶磁器・石製品



遺構の断面図作成(北から)

1 調査の概要

遺跡は、村山市東部に位置し、村山市役所から北西500mの名取地区の松橋集落の畑地・果樹・宅地などの自然堤防に立地し、南側を市道浮沼名取線が走ります。遺跡は、平成11年度に山形県教育委員会によって登録され、平成21年度と24年度に実施された試掘調査の結果、溝跡や柱穴などの遺構や土師器などの遺物が見つかったことから発掘調査が必要と判断されました。

今回の調査は、東北中央道(東根~尾花沢)建設工事に伴う、平成22年度に続く第2次調査です。事業実施範囲内の未調査部分であった、約1,800㎡について調査を行いました。

調査は、6月3日から開始し、はじめに重機械を使用して表土を掘削した後、遺構を検出するため手作業で土を削りました。その後、見つかった遺構を移植コテで掘り下げていき、断面図や平面図作成、写真撮影などの記録をしながら進めました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土坑などが見つかりました。

建物跡は、規模が2間×3間の南北軸のもの1棟が見つっています。

溝跡は南北と東西に10条ほど検出されました。幅1.5m、深さ70cmを測り調査区内をほぼ直角に曲がる区画施設と考えられる溝跡の他、東西に調査区を横断する溝跡も検出されました。

井戸跡は、10基確認されています。全て素掘りで、開口部が広く、底面が狭くなるものと、開口部と底面の広さがほぼ同じになる2つの形態がみられ、構築時期の違いが考えられます。中には、深さ1.5m以上を測るもの、石鉢などが出土した

ものもあります。

土坑や柱穴は、重複するものが多く検出されました。特に中央東側に集中域があり、数棟の建物跡の存在が考えられます。

遺物は、平安時代の土師器や須恵器が多く出土しています。大半が破片で保存状態は良くありません。

須恵器は窯で焼かれた灰色の土器で、甕の体部や底部、坏の破片などがあります。

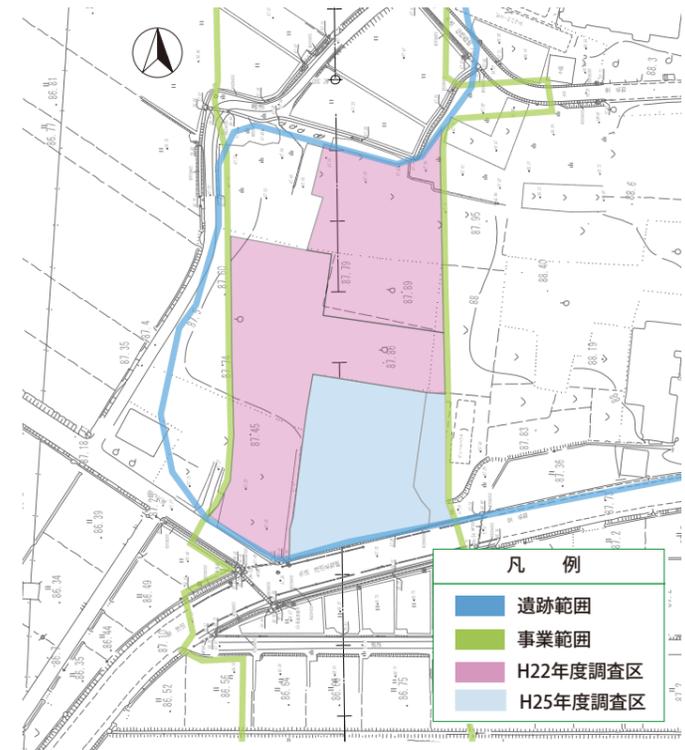
土師器は赤褐色の素焼きの土器です。坏や高台付坏、甕などが出土しました。坏の底部切り離し痕や器形などから9~10世紀頃の所産と思われます。その他、石鉢、硯、砥石、管状土錘や少量ですが中近世の陶磁器が出土しました。

3 まとめ

今回の調査では、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝などの遺構と土師器、須恵器、磁器などが出土し、第1次調査区に続く平安時代と中世にわたる集落の痕跡が確認されました。特に、区画施設とも思われる直角に曲がる溝跡や建物群を推測させる遺構の集中区域などは中世の館跡の可能性ががあります。加えて、多くの溝跡や井戸跡が確認され

ました。また、今回の遺構の配置を見ると集落はさらに東側に広がります。

今後、周辺遺跡との関連を検討し、この地域の当時の様相を明らかにしていきたいと思ひます。



調査区概要図(S=1:2,000)



調査区全景(北から)



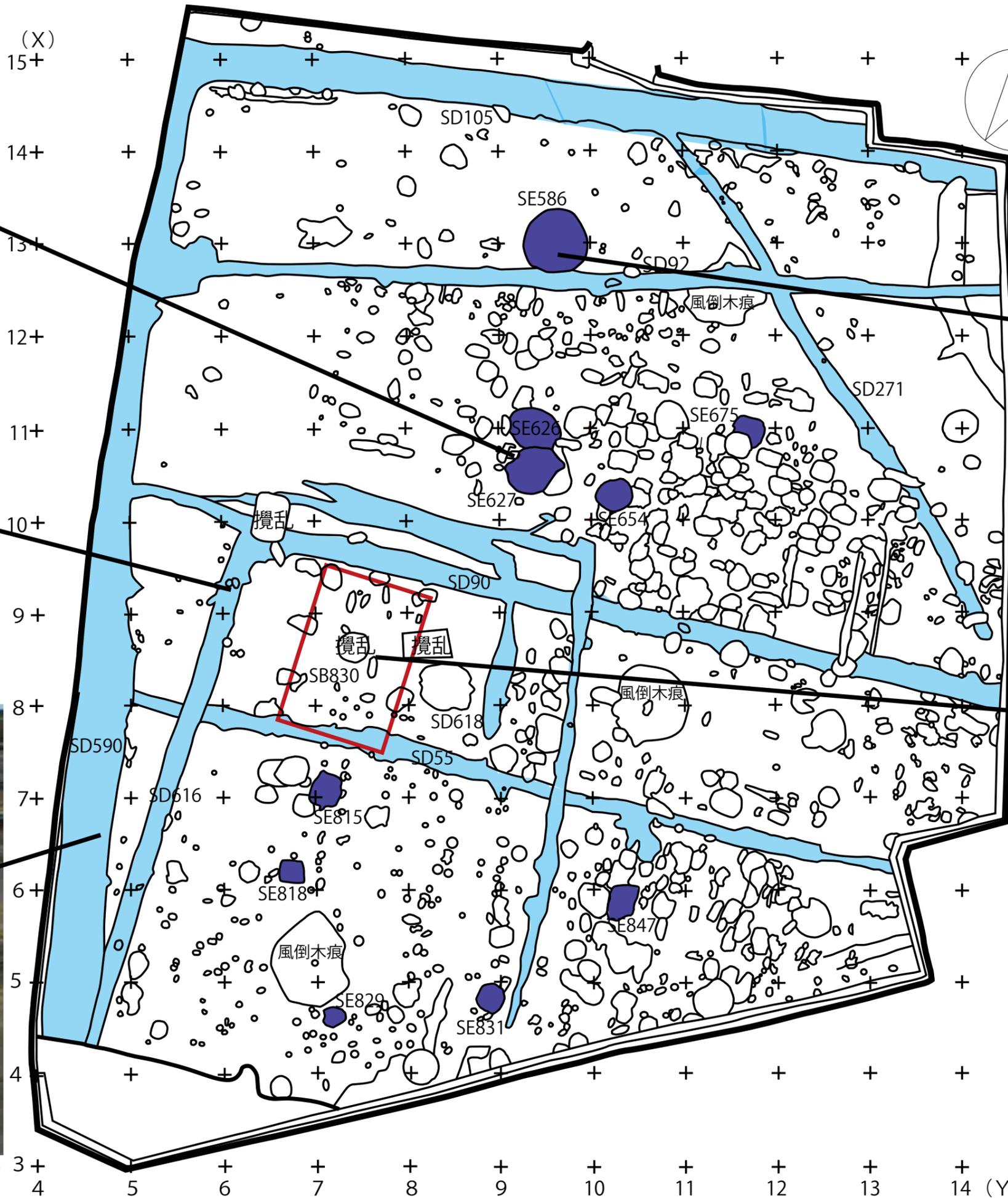
並んで見つかった SE626・627 井戸跡 (東から)



SD616 溝跡 (北から)



直角に曲がる SD590 溝跡 (南から)



石鉢 (北東から)



SE586 井戸跡 (北東から)



2間×3間の SB830 建物跡 (南から)

凡 例	
	掘立柱建物跡
	井戸跡
	溝 跡

松橋遺跡第2次遺構配置図 (S = 1 : 200)